

サキシマエノキ *Celtis biondii* Pamp. var. *insularis* Hatusima, nom. nud.
の果実と花の宮古島での記録

佐藤 宣子 (宮古島市教育委員会 文化振興課
宮古島市史編さん嘱託)

はじめに

サキシマエノキ *Celtis biondii* Pamp. var. *insularis* Hatusima, nom. nud. は低地の石灰岩地に生える高さ2～5mの小高木で、宮古諸島(宮古島・伊良部島)に分布し、他にセレベス・ニューギニアに分布する。日本では宮古諸島が唯一の産地であり分布域の北限地である(初島,1975)。環境省レッドデータブック(2000)では絶滅危惧ⅠA類(CR)(ごく近い将来における絶滅の危険性が極めて高い種)、沖縄県版レッドデータブック(2006)では絶滅危惧ⅠB類(EN)(ⅠA類ほどではないが近い将来における絶滅の危険性が高い種)となっている。本種は『宮古群島の植物』(初島他,1975)において「北村四郎博士は本変種を日本内地に分布するコバノチョウセンエノキと同一物としたが両者は全く異なった別物である。まだ本変種の花、実が判っていない・・・」とされている。今回、果実および花を観察・撮影する機会を得たので報告する。前記コバノチョウセンエノキ *Celtis biondii* Pamp. について北村他(1979)・伊藤(1989)は別名サキシマエノキ、分布は暖帯で本州(近畿以西)・四国・九州・琉球・朝鮮・中国としている。

サキシマエノキ *Celtis biondii* Pamp. var. *insularis* Hatusima, nom. nud.



サキシマエノキ

葉の先は尾状鋭尖頭

「2008年4月上旬頃、上野地区においてサキシマエノキの花を見た。花は小さくまばらに咲いていた。4～5日後、花はなかった。」という情報(安谷屋)に基づき同月19日確認したところ、枝先に花柱の残存した未成熟果実を1個確認した。また、2009年3月10日に城辺地区においてサキシマエノキの花を観察した。現地観察および標本の写真により次の結果を得た。

- 2008年4月19日に上野地区丘陵頂上部サキシマエノキ1個体の新枝の先端部に花柱の残存する子房を1個確認した。子房は緑色で有毛。花柱先端は2裂し、長毛を有する。花柱は薄茶色、花被片は確認できない。(図1.2)
- 2008年4月上旬採取の標本において、1本の枝に、花をつけた3本の枝と7個の花が確認できる(図11.12)。
- 2009年3月10日に城辺地区丘陵頂上部のサキシマエノキ(樹高約5m)の花を観察した。枝先端部の新枝に花をつけていた(図3)。雄花(図4.5)と雌蕊・雄蕊を有する両性花(図7)が確認できた。図3の新枝の3箇所、両性花3花、雄花1花・花梗のみ残存、雄花1花(図6)が確認できた。
- 両性花の花柱は、先端で2裂し白い長毛で覆われる(図7)。花柱の長さは約2mm(図7.9)。子房は緑色、卵形、有毛(図2.7.9)、長さ1.5mm以下、厚さは1mm以下(図7.9)。花梗は有毛で約5mm(図2.4.6)。花被片4、尖頭、表面は有毛、縁毛があり、透明で緑色がかっている(図4.8)。雄蕊4、花糸は透明で花被片と同長(図4.6)。花粉囊は楕円状の袋が二つ合わさった形で、成熟すると縦に裂け上方に反り返る(図4.5)。
- 花の発達段階は一様でなく、花被が半開きの花から全開した花、また花粉囊が未裂開のものや裂開したものまであった(図4-7)。

〈サキシマエノキ自生地での写真〉

○撮影年月日：2008年4月19日 場所：上野地区丘陵部の石灰岩地



図1. 枝先につく未成熟果実

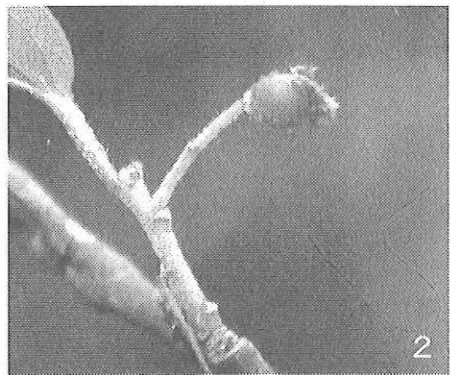


図2. 図1未成熟果実の拡大

○撮影年月日：2009年3月10日 場所：城辺地区丘陵部の石灰岩地



図3. 枝先につく花

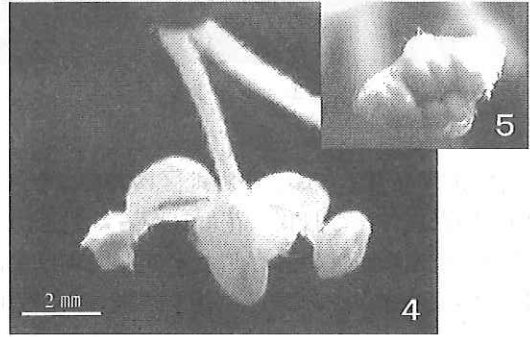


図4. 花被・花糸・葯・花梗(雄花)

図5. 未裂開の花粉囊(雄花)

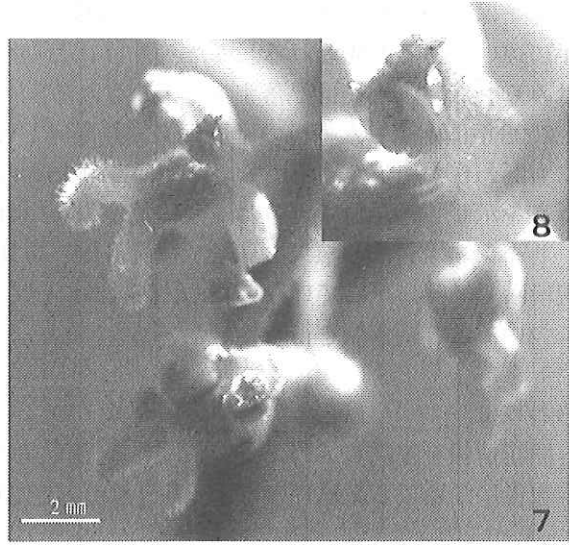
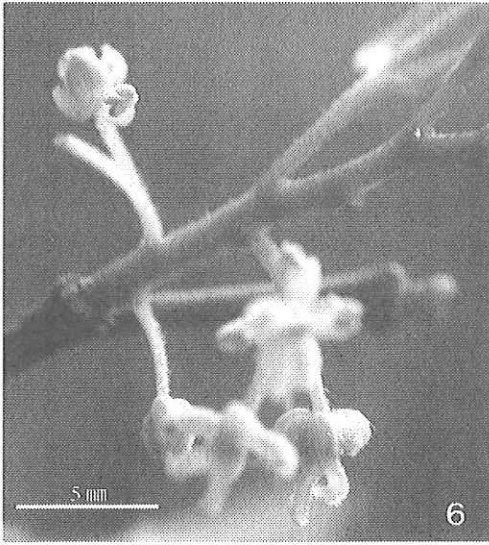


図 6. 新枝につく両性花・雄花 図 7. 両性花(雌蕊・雄蕊・花被) 図 8. 両性花の裂開した花粉囊
(花粉囊の下に花被片縁毛が見える)

〈標本写真〉

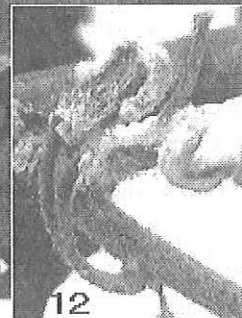
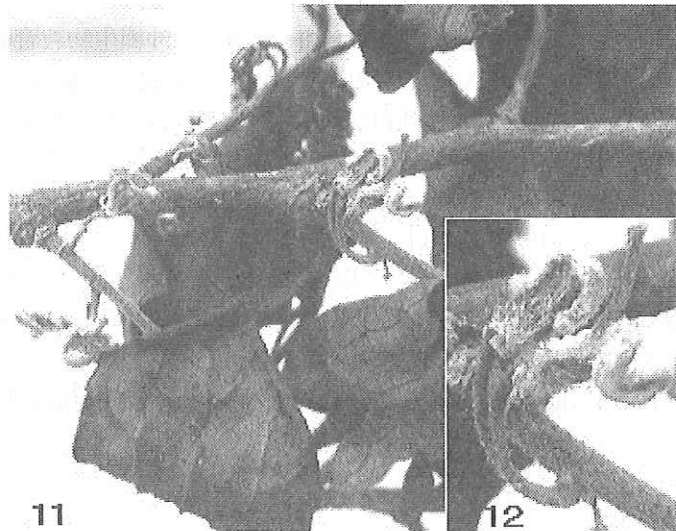
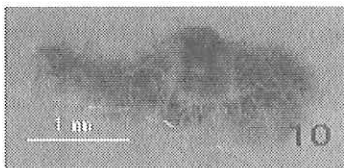
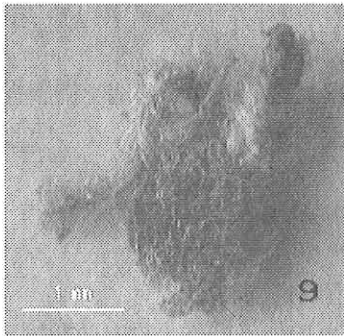


図 9. 未成熟果実標本正面

図 10. 図 9 の下面

図 11. 2008 年 4 月上旬開花時の標本

図 12. 図 11 の未成熟果実拡大図

※図 9.10 は 2008 年 4 月 19 日観察時の標本

考察 サキシマエノキは雄花と両性花を有すること、及び 1 本の新枝に複数の両性花・雄花をつけることが確認できた。開花は昨年比去年約 1 ヶ月早い時期に確認できた。暖冬の影響も考えられるが、開花時期は 3 月から 4 月と思われる。昨年開花した上野地区の個体は 2009 年 3 月 8 日の時点で木全体は新葉となり、本年の開花は確認できなかった。今回観察中のサキシマ

エノキは別の場所に成育しており、同じ個体が毎年開花するのではなく、個体によって開花する年に違いがあると思われる。また、図11において両性花は少なくとも7個確認できるが雄花はみられない。雄花は早落すると予想される。

2008年に確認した緑色の子房は未成熟果実と考えられ、複数の開花があった(前述安谷屋)にも関わらず結実の確認ができたのはこの未成熟果実1個のみであった。このことは結実率の低さを示していると考えられ、個体数が少ない事にも関係すると思われる。

サキシマエノキの核果は球形で径約6mm、黒褐色または黒色に熟する(環境省,2000)が、現段階で結実に至っていないため、核果については未確認である。今後も観察を継続し花、実についての詳細情報を得たい。

おわりに

開花情報を提供していただいた安谷屋昭氏、写真を提供していただいた砂川博秋氏(図11)、本報告についてご教示いただいた川上勲氏に感謝申し上げます。

引用文献

- 初島住彦,1975. 琉球植物誌追加・訂正版. 沖縄生物教育研究会, 西原.
初島住彦・天野鉄夫・宮城康一, 1975. 宮古群島の植物. “沖縄県立自然公園候補地学術調査報告・宮古群島”, 沖縄自然研究会(編), 沖縄県, 那覇, 31-88.
北村四郎・村田源, 1979. 原色日本植物図鑑・木本編Ⅱ. 保育社, 大阪.
初島住彦・天野鉄夫, 1994. 琉球植物目録増補訂正版. 沖縄生物学会, 西原.
伊藤浩司, 1989. ニレ科. “日本の野生植物 木本”, 佐竹義輔他, 平凡社, 東京.
環境省, 2000. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物植物, 環境省, 東京.
沖縄県文化環境部自然保護課, 2006. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物(菌類編・植物編) レッドデータブックおきなわ. 沖縄.
岩槻邦男他 監修, 1997. 朝日百科 植物の世界, 朝日新聞社, 東京.